

【助成 41-48】

小学校女性管理職を増加・維持させる要因は何か？

研究者 宮崎公立大学人文学部 准教授 寺町 晋哉

共同研究者 跡部 千慧(東京都立大学)、木村 育恵(北海道教育大学)、瀬川 朗(鹿児島大学)

高島 裕美(名寄市立大学)、波多江 俊介(熊本大学)、濱 貴子(関西大学)、楊 川(九州国際大学)

〔研究の概要〕

本研究は、都道府県ごとの女性管理職割合の違いや変動プロセスに着目し、女性管理職の多い富山県と神奈川県を対象に増加・維持の要因を明らかにすることを目的とした。富山県の退職女性校長 8 名と富山・神奈川・宮崎県の現職管理職 18 名にインタビューを実施した。その結果、(1)女性差別に対抗する組織的運動が富山県で行われたこと、(2)両県では異動範囲の限定により親族のサポートを受けやすく、ケア責任の委託を行うことで仕事へ打ち込めること、(3)1980 年代以降、女性管理職のロールモデルが豊富で若手の意識形成に影響を与えたことが判明した。一方、宮崎県ではロールモデルが不足していた。

〔研究経過および成果〕

①研究の背景と目的

従来の学校管理職とジェンダー研究では、全国的に女性管理職が少ないことへ着目し、その要因を解明してきた(河野編 2017、浅井・ほか 2016 など)。これらの研究は、一見すると男女平等に思える教職の世界に潜む「システム内在的差別」(河上 1990)を明らかにしてきた。しかし、都道府県による違いと長期間のプロセスへの着目という点で課題が残されていた。

図1は、小学校女性副校長・教頭(以下、女性教頭)の割合を経年推移で示したものである。全国平均をみると、小学校女性管理職割合の推移は、1980年代後半から2000年頃までの「増加期」、2000年頃から2015年頃までの「停滞期」、2015年以降の「再増加期」の大きく三つに区分できる。ただし、図1からわかるように、女性教頭割合は全国一律に変動しているわけではなく、都道府県によって変動プロセスは多様であ

る。本研究では、1990年代から女性管理職割合の高い富山県、2000年以降女性管理職割合を増加させている神奈川県に着目し、女性管理職割合を増加・維持させる要因を明らかにすることを目的とした。

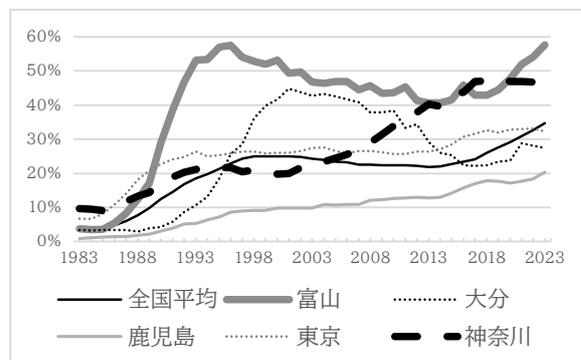


図 公立小学校女性副校長・教頭割合の経年推移

②調査の概要

富山県の退職女性校長 8 名及び富山県・神奈川県・宮崎県の現職管理職 18 名を対象にインタビュー調査を行った。インタビュー調査は半構造化面接法を用い、内容は全て IC レコーダーにて録音し、全て文

字化して分析した。質問内容は、これまでの勤務経験、管理職に至るプロセス、家庭責任と仕事の両立、「女性だから～」と言われた経験、女性管理職が多いことについての認識などである。

③分析の結果

(1) 女性差別と闘った世代における女性の連帯

1950年代に入職した退職女性管理職の語りから、歴然たる女性差別の存在が明らかになった。女性が管理職になることが全く想定されていない時代であり、主要な主任ポストも男性が優先されていた。また、1980年代においても、定年前の女性教員に対する早期退職の圧力も存在していたことが語られた。

こうした女性差別に対抗するために、富山県退職(婦人)女性校長会や教育女性連盟によって組織的な運動や研修が行われ、後続する女性教員をエンパワメントしていくことになる。女性教員の連帯や組織的な運動を通して、1980年代後半以降、富山県は女性管理職割合が増加していくことが明らかとなった。

(2) 富山県と神奈川県との共通点

女性管理職割合を維持している特徴として、以下の二点が明らかになった。

第一に、両県とも基本的には同一自治体内の異動であり、居住地が安定することで親族サポートを受けやすいことが明らかになった。親族へケア責任の委託を行うことで、ケア責任を担う傾向にある女性教員が仕事へ打ち込むことを可能にしていた。また、同一自治体内の異動のため、同世代や先輩との関係が形成・維持されやすく、「見定め」(評価される)機会の増加や女性教員間の連帯の素地が生み出されていた。

第二に、両県とも授業研究を行うことが根付いてい

ることが多く語られ、他校の教職員に授業を公開する機会が多いことも明らかになった。授業公開の機会が増加することで、優れた実践をする他校の教職員を知る機会が増加し、そのことで「見定め」の機会が増加することも考えられる。

(3) 女性管理職のロールモデル

富山県では、2000年代以降に管理職を経験している教員たちが教諭時代の1980年代から、女性の管理職や教務主任と出会っており、女性管理職の存在が「日常風景」となっていた。神奈川県での現職管理職の語りも同様であった。富山県や神奈川県の教員は、「女性管理職」というロールモデルに出会う頻度がかなり多いことがうかがえた。

その一方、女性管理職割合の低い宮崎県では、現職管理職が教諭時代、女性の管理職や教務主任の存在はかかなり「珍しい」ものとして経験されており、ある女性管理職は「女性管理職に出会うまで、自分が管理職を意識することすらなかった」と語っていた。

[発表論文]

1. 寺町晋哉・波多江俊介・濱貴子・楊川・木村育恵・高島裕美・跡部千慧・瀬川朗・柴田里彩、2024、「小学校女性管理職をめぐる同一県内の世代差・地域差の分析—女性管理職割合が高い県に着目して—」日本教育社会学会第76回大会発表要旨集録:37-40.
2. 濱貴子・寺町晋哉・波多江俊介・楊川・木村育恵・高島裕美・跡部千慧・瀬川朗・柴田里彩、2025、「戦後富山県における小学校管理職進出に向けた女性教員の取り組み—連携・ロビーイング・フレーミングに着目して—」『関西大学社会学部紀要』56(2) 掲載予定